

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471200040		
法人名	営利法人 有限会社 まごの手サービス		
事業所名	グループホーム まごの手		
所在地	大分県豊後大野市朝地町下野442番地2		
自己評価作成日	平成26年1月20日	評価結果市町村受理日	平成26年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護は「生活する上での人権を守る仕事である」という信念がもてる事業所となることを目標としています。介護指標として「マスローの欲求」をモデルにし、利用者様の欲求を満たす方法を追求し、集団の中で個が埋もれないようにしています。現在はバリデーション思考を礎に、自己の感情コントロールから始め、やさしい気持ちによる丁寧な支援ができるように人間力の向上と職員間の連携の向上を目指しています。くわえて利用者様の安全支援として①重複支援を避ける②ひとつの支援に最後まで責任をもつ③職員間同士でコーチングすることを柱に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 管理者を主体に職員とのチームワークが取れており、一体となり、事業所運営、およびケアの質の向上に取り組んでいる。
 2. 地域住民との協力関係が構築されており、事業所の運営、地域との交流に効果的に活かされている。
 3. 職員の理念を共有し、かゆいところに手の届くケアを追求し、一人ひとりにゆっくり寄り添うケアを実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は利用者様との合同朝礼時に、理念を利用者様の前で朗読している。そして輪番制でその日の心構え等を全員の前で述べる。この言葉には緊張感があり、介護観を共有する時間となっている。	職員は、毎朝、利用者の中で理念を復唱し、当番はその日の介護に対する抱負を述べることで、「かゆいところは何なのか」はつきり見えるようになった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流活動として、地域の方へ手作り弁当に事業所の様子等を綴った手紙を添えて届けた。小学校との相互訪問、老人会の訪問等、交流機会を継続している。他には隣家境界の草刈りを定期的に行っている。	3ヶ月に一度、事業所の様子を綴った手紙を添えて、近隣の住民、民生委員、クリーニング、理容師さんなど日頃お世話になっている方々へ手作り弁当を届けている。年を経るごとに、老人会や小学校などの相互訪問や地域との交流の機会が増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護職員初任者研修実習施設として登録した。また民生委員の方に、困難事例の有無を尋ねたり、併設デイサービス利用者の認知症相談等少しでも地域貢献ができるように活動をひろめている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告や勉強会の紹介、協議委員から意見や質問をうけ検討改善している。加えて昼食を一緒に食べて頂き、介護状況を直に見て頂いている。議事録は必ず配布し継続性のあるものとしている。	運営推進会議は毎回テーマを決めて開催し、昼食を一緒に食べながら事業所の現状を見てもらっている。議事録は必ず配布し、出された意見などはサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて事業所の抱える実情や事故報告など相談や報告をしている。互いに協力関係が大切なことを担当者と確認している。	担当者とは、日頃から連絡を密に行っている。認定委員もしているので、市役所に行く機会も多く、協働関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様から個別に望んでいることや悩み等を話して頂き、スタッフとの親近感を深めた。信頼関係を礎に、常に介護者本位の不適切な支援になっていないかチームで確認している。	身体拘束や虐待については、何が不適切な行為になるのか、常に勉強会を行うことで、職員自身の戒めになっている。事業所が国道に面しているため安全を考慮し検討を行い家族了承のもと、各ユニットの入口は常時施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様に不安や不満を抱かせないよう職員は①丁寧な言葉使い②やさしい気持ちで対応③気持ちに通じなかった時はアフターフォロー④職員同士の言葉使いの向上等を重視し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する方がおられ、制度の活用方法や権利の範囲等を直に学び、理解を深めた。介護は利用者様の生活の権利を守る仕事であることを管理者は常々説いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料、事故のリスク、病院受診、洗濯、ターミナル等は必ずポイントとして説明している。契約に関する個別にあった相談は、その後の契約時に活用している。法改正の際には、文章で変更点をお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人や家族からの要望等には、職員対応、管理者対応と別角度から直接話して頂き、意見埋もれを防止している。長年運営にかかわって頂いている音楽療法士、後見人等にも窓口となって頂いている。	利用者、家族には、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意し、出された意見は全員で話し合い、反映させている。また平成17年から、利用者の家族だった音楽療法士や後見人も、日常の利用者支援や事業所運営など積極的な関わりを持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際に月リーダー、主任、代表者間で意見交換の場をもち、個人及び組織のモラルを高めている。現在の目標は連携の向上である。さらに人事考課面談で双方の要望を個別に話し合うようにしている。	職員間でチームワークがとれており、質の向上に意欲的に取り組んでおり、協議結果や意見が、事業所の運営や支援に活かされている。また、年2回人事考課を実施し、職員個々のレベルアップに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員自身がやりがいと責任をもてるように、利用者様担当制、人事考課制度による自己他者評価を行う等の積み上げをしている。就業環境や福利厚生等は年々整備できた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護力の向上及び展開は職場トレーニングを通じて実施している。同時に人間力を高められるように職員間の人間関係を大切にするように努めている。現在は職員間の言葉使いをテーマに進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事業所連絡会を通じ、情報交換や研修企画等交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	尊厳を持って迎え、その方の喜び・悲しみ・人生論等をじっくりとお聞きし理解していく。お会いできて嬉しい事等を積極的に伝え、安心できるパートナーと認識して頂ける関係作りを実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩み事等を傾聴し、要望や不安に具体的に对应していくよう心がけている。同じ方向を目指し、安心してご相談頂ける関係づくりを支援を通じて行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の初期要望等聞きとり、その時点で最適な支援を納得されるまで実践している。特に入居時における家族と利用者様の関係距離を話し合うことも原則としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話を重視しスキンシップを重ねるなか、ねぎらいの言葉を頂くことも多く感謝することがある。共にやさしい気持ちで、おだやかな輪が広がる時間を築きながらの暮らしが自然とできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際や月手紙等で、日頃の様子や職員側の思いを伝え、潤滑剤となることに努めた。その結果、ご家族職員共にご本人の気持ちに寄り添える話しができるようになった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話を多くもち、ご性格や人間関係等知ることを大切にしている。入居後も生活ベースの延長線上となるよう馴染みの場所や自宅帰り等、要望を重視した支援をしている。	一人ひとりをよく知るために会話の時間を多くし、情報は記録して職員間で共有している。今までの生活の延長線となるよう、馴染みの場所や自宅訪問など要望に沿った支援を継続している。また、長期利用者も入居後構築された馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日レクやトランプ等でテーブルを囲むなか、笑い声もあがり、和やかな家庭的雰囲気を感じられる。まれに利用者様同士が対立しそうな時は、気分転換が図れるようさりげない言葉がけで介入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には面会に行き、家族の相談相手となっている。他施設に転居された方には、ご家族や職員の方とその後の連絡をとるなどの支援をしている。		
人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の顔色や言行動に気をつけながら見まもり、希望や思いの把握に努めている。変化を感じた時は職員全員で話しあい、よりよいサービスにつなげている。	常に言動に注意して、職員側からアクションを起こし、話を聴くことに努め、利用者の思いや希望を拾い上げている。得られた情報は職員全員で話しあい、よりよいサービスにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話を多くもち、生活歴等の情報収集に努めている。長期的に細部まで教えて頂き、本人の大切なこと苦痛なこと等を重視した支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調や表情言動等の小さな変化も見逃さないよう、介護計画にそって個人を線の視点で把握している。特に自己決定を尊重し、満足感がえられる支援に必要なエンパワメントの情報収集をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活からマズローの5大欲求が満たされているかアセスメントとモニタリングを繰り返しながら計画を随時立案している。ご本人や家族の要望を取り入れスタッフ間で話し合い、評価検討を重ね実施につなげている。	日常生活の中でマズローの五大欲求が満たされているか、見えていない部分を拾い上げるための評価・モニタリングを繰り返しながら、全員で話し合いを行い、計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の情報や支援をフォーカス方式により記録している。そこで得る気づきや実践結果等を共有している。介護計画の立案や見直しの材料であり状況変化にも柔軟にチームで対応できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人及び家族から表出されるまたは表出されない「要望」「欲求」に寄り添う支援に努めた。その結果、個が集団にうもれない支援となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の体調やご家族からの要望に柔軟に対応できるように、地域の理美容室、金融機関等に協力を頂いている。また割烹からの寿司、花屋等との協働体制の中から特別な楽しみの時間を継続させている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は職員同行としているが、必要時には家族に同判して頂く。本人の希望診療科受診も柔軟に職員や家族協力を得ながら対応している。家族への報告は随時行っている。	かかりつけ医の訪問診療もあるが、受診時は職員が同行している。専門医受診も、家族の希望や協力を得ながら受診するよう、連絡を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調把握に努め、看護職に小さな変化も報告している。看護職はその情報をもとに前駆症状等整理し、かかりつけの医師と連絡を取りながら、早期改善を目標に受診や看護を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を提出し、本人が入院生活で困らないようにしている。加えて入院の必要性が理解でき安心されるように家族とよく説明するようにしている。退院支援としては面会による顔つなぎや認知機能確認を実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の迎え方について、本人の思いや家族の意向を早くから都度々話し合い把握している。看取り時は本人、家族の気持ちに寄り添い「最期はここがいい」と思われるよう、職員はやさしさが伝わる支援を最期までねばり強く行っている。	終末期や看取りについては、早い時期から話し合いを繰り返し、本人や家族の思いを大切にしながら、全職員で「最後はここがいい」「ここで良かった」と思われる支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態急変を早期発見できる観察ポイントを明示している。準急変時は、救急蘇生ポイントを看護職より指導している。急変時の後には、職員間での事後検討等で判断力実践力を向上させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルにそって、夜間想定避難訓練を消防署、近隣住民の方と実施し、アドバイスを頂き役立てている。地域の方も事業所を抱えているという自覚から訓練日や連絡網に配置して頂く等の関係作りができています。	今年度は夜間を想定し、特に通報の仕方や、地域の連絡網の配置などを重点に避難訓練を実施した。地域との協力体制ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	第一に尊敬の念とやさしい気持ちを大切にすることを心がけ、プライバシーを守れるよう相手の立場にたって支援している。一つの方法としてバリデーション思考による対応を継続して取り組んでいる。	職員採用時は必ずDVDを用いた教育を実施し、バリデーション思考の研修もを行い、プライバシーの確保と利用者の立場に立った支援ができるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が選べる場面を作れるように会話を多く持ち、話しかけられやすい存在となるように心がけている。成果として自己決定または助言で、気持ちを表出する場面が多くみられている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様と接する時間を基本とし、敬意ある姿勢を示すことを積み重ねている。要望を受け入れられるようチームで連携支援を図った結果、ご本人から満足感を伺える言葉が聞かれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の着替えは一緒に考え、好みのものを自己決定して頂いている。また汚れ時の更衣はさりげない支援でプライドを大切にしている。整容は鏡の前で行い楽しい時間となることを基本としている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	だんご汁やいなり寿司作りの際にはアドバイスを頂いている。それぞれに美味しい食事となるように嗜好品準備や大きさ等に配慮している。そして一緒に食べ共通の話題で楽しい時間を共有している。	朝食は事業所、昼・夕食は併設のデイサービスで作っている。利用者が残すものや食べないものをチェックすることで嗜好の把握をしている。また、誰と食べるのか、席の配置も考慮し、職員も一緒に楽しく食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様の体調・摂食機能・楽しみ等に応じて刻み食、ミキサー食、おじや、寒天、果汁、ココアなど口あたりやのどごしの良い調理工夫をしている。生活感のある摂食支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔は、誤嚥予防目的であること等身体にとって良いことと理解して頂くことから始めている。コミュニケーションを図り、楽しい支援のもと口腔ケアは継続性のあるものとなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェックシートで個人の排泄パターンを把握し、さりげない声かけで自立を促している。尿意が弱い利用者様においてもトイレに座って頂く習慣を大切に自立感のある生活にしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや介助により、利用者全員がトイレでの排泄をし、自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後できるだけトイレに座って頂き、自然排便ができる様にウオシュレットで刺激したりお腹をさする等、ゆっくり時間をかけた支援で効果がみられた。下剤服用時間も個々の反応時間に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングにそった入浴方法でゆっくりと湯船につかって頂くよう努めている。入浴中はゆっくりお話を聞き、楽しみのある時間となっている。	毎日沸かしているため、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援ができている。入浴時間は利用者にとって、職員とゆっくり会話も弾む楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を把握した上で、レクリエーションや外出を活用し、自然な休息リズムがとれるようにしている。眠れない時はお茶をお出し、お話しをする寄り添い支援を落ち着かれるまでじっくりと行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	適切な薬物療法となるように、一人ひとりの食欲、便秘等身体状況を把握し、服薬支援に努めている。処方変更の際は、看護職から注意事項等の説明を行い、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	大切な記憶、できる力、人のやさしさ等にふれる瞬間こそが喜びであると考えている。その実践として楽しみや役割事のある環境を整え、家事やレク等を多彩に取り入れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場の散歩では地域の方と話したり野花を摘む等ゆったりと外出を楽しんでいる。ご本人の外出したい時に出かけることを基本的に、買い物や自宅帰り等、利用者様本位の外出支援をしている。戸外時間での信頼関係作りを大切にしている。	一人ひとりの機能や希望に合わせて、1対1や集団での外出支援をしている。最近では、有料老人ホームのテラスでお茶を飲みながら外気にふれる支援もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使用の有無にかかわらず、お金を所持することによる安心感に配慮した支援を家族等の協力で実施している。自分で金銭管理するという価値観を大切にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙支援では代筆、返事が来た時は共に喜んでいる。電話時は自室で会話が漏れない様ゆっくり話して頂いている。電話希望時は、原則「すぐに支援」を徹底している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	味噌汁の香りで1日が始まり、心地よさが共有できるように、季節の草花かざりやオブジェ作りをしている。洗濯物たみ等生活感のある空間作りを全員で取り組んでいる。共有のトイレや居間等は清潔感を第一としている。	リビングは明るく、温度、湿度も適正に管理されている。季節感のある草花や作品などが飾られ、また、調理の音や香りに生活感を感じながら、くつろいだ雰囲気作りに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の気持ちを知り、個々がやすらぎや喜びを感じられる居場所を提供している。ご利用者間の関係性を注視し、支援を要す案件には、職員間で話し合いを持ち、臨機応変に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライベート空間は、癒しの場となるよう使い慣れている物や好みのもをご本人の意思を尊重しながら整えている。室内は一緒に整理し、転倒防止をふくめ安心してお過ごし頂けるよう支援している。	本人や家族の思いを尊重し、好きなものや馴染みのものなどで居室を整えている。清掃や整理なども職員と一緒にしながら、居心地の良さに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分らしく過ごせ、かつ事故のないよう人的及び物理的環境を安全に提供できるように職員間で情報を持ち寄り検討している。		